

2013 荒尾市 10大ニュース

2013年も残すところあとわずかになりました。さまざまなことが起こったこの1年を、荒尾市の出来事で振り返ります。皆さんにとって来年もよい年になりますように…



▲万田坑第二竖坑櫓（左）と第二竖坑巻揚機室（右）。炭鉱ではたくさんの人たちが懸命に働いていました。

1 祝・万田坑 世界文化遺産 推薦決定！

9月20日、本年度の世界遺産の政府推薦候補に、本市の三池炭鉱万田坑及び三池炭鉱専用鉄道敷跡を含む「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」が正式に決定しました。今回の決定は大変喜ばしく、地域の資産である万田坑などが世界の宝となるための大きな一歩になりました。

今後は、平成26年の夏から秋頃に予定されるユネスコ（国際連合教育科学文化機関）の諮問機関であるイコモス（国際記念物遺跡会議）による現地調査などを経て、平成27年の世界遺産委員会での世界文化遺産登録を目指していきます。

有明海沿岸道路（Ⅱ期） 実現へ大躍進！

2

5月15日、有明海沿岸道路（Ⅱ期）の大牟田市～長洲町間が事業化に向けた概略ルート・構造の検討を進める区間に選定されました。これにより、有明海沿岸道路（Ⅱ期）の整備の実現に向けて大きく前進しました。

高速道路がない本市にとって有明海沿岸道路（Ⅱ期）の整備は、長年の悲願でした。沿線市町や地域の経済団体からなる期成会の積極的な要望活動が今回の決定を強く後押ししました。九州地方小委員会での審議を経て、整備のための詳細ルートの検討が進められます。

これからも有明海沿岸道路（Ⅱ期）の早期実現に向けて尽力していきます。



▲三池港ICから長洲町方面を望む。整備が実現すると、本市のさらなる発展が期待されます。

県内最大のメガソーラーの 立地協定を結ぶ

3

11月20日、ソフトバンクグループで再生可能エネルギー事業を展開するSBエナジーと三井物産が、大島に大規模太陽光発電施設を設置するための立地協定を締結しました。県内最大の22.4メガワットを出力する発電施設は、平成27年1月から「熊本荒尾ソーラーパーク」として運転開始予定です。ことし、荒尾市では、1件のメガソーラーが稼働を開始し、2件のメガソーラーが新しく建設されることになりました。

あらお荒炎祭が20周年を迎える

4



▲太鼓などのパフォーマンスに会場は熱く盛り上がりました。

8月3日、あらおシティモールで20回目となるあらお荒炎祭を開催しました。ステージイベント、ウルトラヒーローとのじゃんけん大会、あらお観光大使関島さんによるライブなど数多くの催し物が行われ、2万人ほどが祭りを楽しみました。開催20回を記念した食のブース「ふるさと 四ツ星市場」が催され、「阿蘇・東北復興支援ブース」では売上金22万円ほどが被災地に届けられました。

5

「荒尾干潟の日」を制定



▲干潟の生き物をかわいく描いた手作りポスターを頂きました。

昨年7月3日にラムサール条約の登録湿地となった荒尾干潟。この世界が認めた干潟を後世に伝えるため、登録日の7月3日を「荒尾干潟の日」と決めました。6月30日には登録1周年を記念した「荒尾干潟の日2013」を文化センターで開催しました。さかなクンの環境講演では、直筆のイラストを参加者にプレゼントするなど会場は大いに盛り上がりました。

6

宮崎兄弟の生家施設開館 20周年記念事業を開催

9月28日、宮崎兄弟の生家施設で開館20周年を祝う記念式典を開催しました。記念式典では、資料提供などで協力いただいた人への感謝状の贈呈や記念講演が行われました。また、「音と光の祭典」も同日開催され、生家は一日中にぎわいました。



福岡ソフトバンクホークスファーム球場の 誘致活動を展開

7

「ソフトバンクを荒尾へ！」を合言葉に8月末から1か月間ほど誘致活動を行い、荒尾が鷹色に染まりました。本市は、荒尾競馬場跡地をファーム球場の候補地とし、「JR荒尾駅や有明海沿岸道路、有明フェリーなどの交通アクセスの良さをアピールしました。残念ながら誘致には至りませんでした。誘致活動で市民が一つになれたことは、今後の荒尾にとって大きな収穫となりました。

8

予約型乗合タクシー運行開始

10月1日、路線バスの代替手段として、「予約型乗合タクシー」が運行を開始しました。乗合タクシーは平井・府本地区に導入され、事前に利用者登録をして利用します。運行区域内では自由に乗降できるため、バス停まで歩かなくても、家の近くで乗降することができます。これからの新しい交通手段として乗合タクシーの活用が期待されます。

ウルトラマンランドが閉園

9

17年間にわたり多くの人に愛されてきたウルトラマンランドが9月1日に閉園しました。閉園セレモニーでは隣接するホテルの壁にウルトラマンの映像が映し出され、「私たちの絆は失われない」とのウルトラマンからのメッセージが伝えられると、温かな拍手が巻き起こっていました。

10

中国大使が宮崎兄弟の生家施設を訪問

9月7日、中国駐日大使としては初めて程永華氏が宮崎兄弟の生家施設を訪問しました。大使は「孫文や滔天の精神を受け継いで未来に向かいたい」と話し、日中の交流に意欲を見せました。今後も荒尾市は中国と友好的な関係を築けるよう、努めていきます。